

国際サーカス村通信	VOL.18 N006	2014年 8月 1日 (金)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688	http://www.circus-mura.net	k-nishida@accircus.com

●サーカス学校開校満13年

早いもので、サーカス学校を開校して13年が経った。2001年9月に開校してから、順風満帆どころか様々な出来事があり、そのひとつひとつを何とか乗り越えてきたといたいだが、2011年3月11日の東日本大震災と、それに続く、今もってなんら収束する気配のない東京電力フクシマ第一原発による大公害事件である放射能拡散は、学校を一時休校せざるを得ない状況に追い込み、一度は除染したものの、体育館排水溝では、時に地上値で1マイクロシーベルト毎時を超える日もあるのが現状だ。一昨年9月に学校は再開したものの気の休まることはなく、放射能数値の高い排水溝近くのドアを開けないようにしているが、それは気休めでしかないだろう。

僕らとしては、どうしたって今回の大公害事件の大本であるフクシマ第一原発始め原発のすべてが廃炉へ向かって舵をきるまで、原発廃炉の声を上げ続けなければならない。この大公害事件で実害にあった人々の身になって考えれば、原発再稼働なんて、どう考えても受け入れることはできないはずである。それを、偽りの安全基準で再稼働させるのは、どのような神経をしているのかと思ってしまう。思うに、再稼働させようとしている人々にしても、本当に二度と原発事故が起こらないと信じていないのではないか。それにもかかわらず再稼働しようとする意図はなにか。単に地元の経済の問題だけではなく、この国を時代錯誤の強国にしたいと考えている政治家と彼らを支持している資本家たち、官僚たちの、グロテスクなまでの強欲な権力志向でしかないように思える。

そんな状況を変えることもできずに、サーカス技を学ぼうとする若者たちに、ぼくらは何を伝えればいいのか。正直、コトバなく立ちすくんでしまう。彼らが学ぶ技が素晴らしいものになり、人びとになんらかの感動を与える。それはそれで素晴らしいはずだが、そうした情景の向こうには、世界を破滅に導こうとする狂気がズンズンと音を立てずに近寄っているような気がしてならない。

僕らの芸は、断崖絶壁の前で、演じられているのであろうか。

●“サーカスはリヤカーに乗って・港の街篇”

サーカス学校開校13年修了の発表会は、卒業生で“サーカスはリヤカーに乗って”の旅を続ける田中健太の作・演出による作品発表でもある場となった。

彼の意識のなかでは、今回の発表会が“サーカスはリヤカーに乗って”の巡業、反原発行動参加の旅の過程に位置づけられていたのだろう。そのタイトルも、“サーカスはリヤカーに乗って・港の街篇”となり、サーカスを載せたリヤカーが、とある港街にやってきたという想定になっていた。

開場（といっても、早く来たお客さんは自由に体育館内に入ってもらったが）と同時に、さまざまな反権力歌が流れ、彼の選曲した曲終わりで開演ということで、開演時間が13:03になった。船の汽笛がなり、車の疾走する音、事故の音などが、港街の情景を連想させ、そこに警官につかまった泥棒が登場するといった具合に、芝居仕立ての開幕である。

そしてリヤカーと一緒に全員が登場、オープニングという流れで、続いて、次々と生徒たち、参加した卒業生の演技が繰り広げられた。1時間30分の舞台であった。

残念ながら、2日目は、参加した2名の卒業生が参加できないので、この“港の街篇”は初日だけの上演となり、2日目は生徒たちとほかの卒業生の演技となり、芝居仕立ての公演はできなかった。

リヤカーがこの発表会で重要な役割を果たす構成にしてくれたのは、僕としては大いに感謝したいところだ。会場である体育館内に、旅の途中でリヤカーに付けている幟旗を飾れたのも、こうした作品を作ってくれたおかげといえるかもしれない。

これまでのリヤカーの旅では、場所によっては、反原発の幟旗は遠慮してもらいたいといわれたこともある。そうした時は無理に幟を立てたりしないようにしているが、そのような声が出てくること自体が、今の日本の状況を表しているように思うし、それこそがとても大きな問題で、東京オリンピックに向けてさまざまなイベントが組まれるだろうが、それ自体が、フクシマ原発公害大事件から目をそらせる仕掛けとなっていることに、ぼくらは無関心であってはならないと思う。

今回の発表会では生徒たちの演技はまだミスも多いし、ただ技を見せようとするに終始している状況だが、さらに一歩先を目指して、お客を感動させるような演技（技と表現）を身に付けてもらいたいと思う。

その点、参加してくれた卒業生、サクノキこと鶴貞浩君の演技は素晴らしかった。立方形の枠組の道具を使った演技だが、それを振り回す技術だけではなく、その檻に閉じ込められている鳥かあるいは人が、その、閉じ込められている状況から檻を徐々に自由に操ることで自由になる流れを見事に表現していた。そこには技だけではなく彼の感性が息づいていたといえるだろう。在校生が学んでほしい演技が、そこにあっただのである。

生徒たちの中では、油布直輝のシルホイール（直径2メートル弱のステンレス製の輪）の演技が秀逸であった。7月6、7日の富士見市民文化会館キラリ☆ふじみのイベント“サーカス・バザール”での公演が初舞台で、その時も演技として成り立っていると思ったが、それからわずか2週間ほどで、さらに進歩した演技となっていた。勿論、まだ技の披露という面は否めないが、そこに、彼の感性に基づいた表現したいものがプラスされてくるようになれば、どこの舞台にも参加できる作品になるに違いないと思えた。



↑発表会でシルホイールの演技をする油布直輝



↑ナージャ先生、生徒たちと集合

● “サーカスはリヤカーに乗って” の旅はつづく

前回の会報で、6月14日（土）の秩父“ムクゲの森”での公演までの行程を紹介したが、それ以降は以下の通り。

- 6月15日（日） ピースウォーク（長野県飯田市）、リヤカー遊行
- 6月18日（水） 阿南町デーサービス（長野県下伊那郡）
- 6月19日（木） 天龍村公演（長野県下伊那郡）幼稚園、老人ホーム
- 6月20日（金） 松本駅前反原発集会とデモ（長野県松本市）にて、ショーと行進
- 6月21日（土） 風の谷絵本館（長野県上伊那郡）ミュージックグループ「イナダニアン」と共演（ケン太&アリサ）
- 6月22日（日） 原水禁デモに参加（長野県平岡駅～飯田市）
- 6月23日（月）～29日（日） 沢入国際サーカス学校ワークショップ
- 6月29日（日） 「第11回国際舞台芸術祭（IDTF）」（シアターX、東京・両国）観賞
- 6月30日（月） 官邸前デモへ・個人参加
- 7月1日（火） 「第11回国際舞台芸術祭（IDTF）」（シアターX、東京・両国）観賞
- 7月3,4日（木金） 「サーカスバザール」（富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ）仕込み
- 7月5,6日（土日） 「サーカスバザール」（富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ）公演
- 7月19,20日（土日） 沢入国際サーカス学校発表会
- 7月31日（木） 「アグロス胡麻郷・地湧舎」（京都府南丹市）に逗留。8月20日頃まで
- 8月1,2日（金土） 能勢農場
- 8月3日（日） 越前市
- 8月20日（水） 滋賀県立小児保健医療センター（滋賀県守山市）

以上のような予定でいますが、8月4日以降20日までの京都滞在中は、現在予定が入っていません。同行しているパフォーマーはケン太一人ですが、30～40分のショー・大道芸ができますので、各種施設から保育園、夏祭、イベント、集会などにぜひご紹介をいただければ幸いです。

これ以降のスケジュールで決まっているのは以下のとおりです。

- 10月3,4日（金土） 京本千恵美ソロ公演『ここはどっちへ？』（長野ネオンホール/長野県長野市）
- 10月26日（日） 関東短期大学学園祭参加（群馬県館林市）



↑リヤカーの上で演技するアリサ

● 『第1回コントーション発表会ノガラ』開催のご報告

去る6月28日（土）、四ツ谷（東京）のライブハウスで「第1回コントーション発表会ノガラ2014」を開催しました。コントーションばかり80分のショー。観に来ていただいた方は、どんなものを見せられるかわからないというのに来ていただいてありがとうございました。

コントーションは英語で「歪み、曲がり」という意味です。モンゴルにはコントーションにあたる固有名詞があります。「オランノガラルト」といい、意味は「芸術的な曲がり」。ただの曲がりではなく、芸術的などという形容詞が付きます。そう、コントーションは、モンゴルでは芸術なのです。

軟体芸が芸術の国のサーカスでコントーションを学んで帰ってきてから5年。この「芸術的な曲がり」を日本にも広めたいと思い、これまで細々と活動を続けてきました。興味のある人を募って練習会を定

期的に行ったり、沢入国際サーカス学校出身の目黒有沙さんとイベント（「Contortion Weeks」2012年 市ヶ谷・東京にて）やWSを開催したりしてきました。

興味がある人なんているの？と思われるでしょう。私も最初は、どんな人が来るのか、そもそも人が集まるものなのか確信なんてない中で始めました。それが、好奇心旺盛な人というのがいるものですね。集まってきたのは大体がどうの昔に成人した大人。特にスポーツ経験があるわけではなく、動機は「身体が硬いから柔らかくなりたい」「ほかのパフォーマンスを行っているのでそのために柔軟力をあげたい」「趣味」などでした。

モンゴルで、コントーションは（現在は趣味で行っている人も多くなっているようですが）職業です。コントーションист（コントーションのアーティスト）になるために日々トレーニングを積んでいる、片手倒立や口で全身を支えるポーズ（写真参照）をバシバシきめる子どもたちと練習してきた私は、ちっちゃい子たちの中にひとり図体のかい自分が独活の大木のようにいる画が滑稽なものだと感じていましたが、30代や40代の身体が硬い大人たち（それも、男性が多かったです）とぐにゃぐにゃになろうとひたすらストレッチをしている風景もまた、同じくらい滑稽だなと感じたものでした。ほのぼのと練習しながら、「やりたいこととなんだか違う」とどこかで感じながらも活動を続けてきましたら、昨年流れが一気に変わりました。

「私、コントーションист（コントーションのプロのアーティスト）になりたいんです！稽古をつけてください！」という女性が突然現れたのです。今回ゲスト出演してもらったエミリアという女性です。彼女は、「あなたの自宅でもどこでも行きますし、練習は絶対にさぼりませんし、どんな辛い練習にも耐えます。ベビーシッターもやりますのでお願いします！」と並々ならぬ熱意を持って、妊娠中のお腹の大きくなってきた私に迫ったのです。そうして自宅のリビングで、空いている時間に彼女にレッスンをするようになりました。南アフリカ共和国で生まれ育った彼女は、幼い頃サーカス学校に通っていたとのことで多少の下地もあり、レッスンを重ねるごとにめきめき上達していきました。（右写真；上は発表会で演技中のエミリア。難易度の高いトリックに挑戦している）



そうしたらほどなくして、今度は沢入国際サーカス学校に練習に来ていた高校生の女の子でコントーションистになりたい子がいると、西田さんから紹介してもらいました。出演者のゆずほという子です。もともと新体操をやっており、身体がよく使えました。ちょっと稽古したら、すぐに倒立ができるようになり、そのまま3分静止してみせたのには驚きました。その後続けて、やはり新体操出身で柔軟力は申し分ないRika（上写真；下）やMizuki（どちらも出演者）など、10代の子たちが加わりました。並行して、成人した硬い人の中にも、熱心に練習を積み、少しずつ伸びていく人たちがちらほら出てきました。

こうして、やる気と素質がある実践者がだんだんと増えてきたのでした。

*

私は今の会社に入社してから、西田さんがサーカス学校へたびたび連れて行ってくださっていました。毎年2回の発表会や2010年に行った舞台公演「勝ってたまるか剣振丸」などのショウづくりの際に練習に参加させてもらったり、見学させてもらったりと「ショウを作る」ということを肌で体験させてもらっているうちに、色々な舞台やパフォーマンスを観るときによいと思ったアイデアを書き留めたり、「私だったらこんなショウを作りたい」と考えるようになりました。だから、コントーション「ぼい」ことができる人たちが集まってきたときに、ショウをつくるぞ！とすぐに思い立ちました。また、弊社

で学んだ、裏方の作業をひとりでやってみるという自分へのもうひとつの挑戦でもありました。企画、チラシ作成、出演者 15 名の管理、宣伝、会場とのやり取り、当日の進行など。結果、やはり数人で分担した方がよいということがよく分かりました。ちゃんちゃん。

さて、出演者たちの練習期間は、長い人でも 1 年半でした。柔軟力や筋力が十分ではなく、コントーションの基礎的なトリックができない人もいたのは事実なのですが、そういう人はプロのダンサーだったり、ほかのパフォーマンス歴が 10 年以上だったりしたので、得意なパフォーマンスと組み合わせせて作品づくりをしてもらいました。そして、レベルはどうあれこれはコントーションの発表会なので、出演者全員に、柔軟技・バランス技・倒立技の 3 種類を必ず入れるという条件を出しました。

オープニング、15 名の出演者それぞれのソロ作品をオムニバス形式で披露した後、アーティスト志望の 10 代 3 名によるユニット作品、そして全員によるエンディング。

オープニングは日本にコントーション文化が誕生する、陽が昇るイメージで作りました。モンゴルの音楽大学に留学し、民謡オルティンドー（長唄）を学び、現在は日本で歌手として活動中の三枝彩子さんという方の「この世を照らす太陽」という曲から始めました。

以下、出演者それぞれの紹介をさせていただきます。

- ① アマリン；日本在住のベネズエラ人で、唯一ベネズエラダンスが踊れるというダンサー。
- ② メグ・山田；ベリーダンスにコントーションのトリックを組み合わせました。
- ③ AKARI（アカリ）；専業主婦。肘倒立で何分キープできるか、本番ステージ上でチャレンジするというパフォーマンスを行い、練習中に一度もできたことのない 3 分以上のキープを達成しました。
- ④ NoN（のん）；職業は「女王様」。自前のムチを鳴らしながら演技しました。
- ⑤ ERi（エリ）；他のパフォーマンス歴なし、身体も硬いという何も無いところからトレーニングを始め、コントーションだけの作品に挑戦しました。
- ⑥ Risa（リサ）；俳優の経験を生かし、開演前からお客さんとコミュニケーションをとりながらのパフォーマンスをやってもらいました。
- ⑦ あっきーな；タップダンスとコントーション。ブリッジしてタップ、ヤドカリのポーズでのタップに挑戦。
- ⑧ NIKA（ニカ）；ロシア出身のポールダンサー。ロシア舞踊にコントーションを取り入れ、出演者 6 名と華やかに踊りました。
- ⑨ Ash（アッシュ）；会社員。「コントーションのルーツは女神に捧げる、女性の美しさを見せる踊りだった」とモンゴルでは言われており、社会主義時代の作品を見ると、拍で区切られていない曲を BGM にトリックやひとつひとつの動きをゆったりと行い、神聖さを感じさせるようなものが多いです。そんな作品を目指しました。
- ⑩ ALK（あるく）；ポールダンサー。「私は普段ポールに頼りきっている。何もない舞台上、身ひとつでパフォーマンスができるようになりたい」とコントーションを始めた彼女。ストーリー性のある作品を披露しました。
- ⑪ Mizuki（ミズキ）；高校生。扇子を使い、着物のような衣装で和風の作品作りに挑戦しました。目黒有沙さんがすでにそういった作品を作っているの、同じことをやらないように注意しました。（右写真；上）
- ⑫ Rika（リカ）；新体操歴 13 年。できるだけ新体操で培ったものを出さないように、演技の半分は倒立技を行いました（新体操では、倒立して静止はあまり



やりません)。

- ⑬ ゆずほ；高さ 1m ほどの跳び箱のような台を使い、跳んだり跳ねたりアクロバティックな作品を披露しました。(前ページ右写真；下)
- ⑭ ゲスト；Emiria (エミリア)；昨年よりドイツでコントーション修業中。今回は一時帰国中に出演してもらいました。ドイツではコントーション=セクシー、Flexible+Sexy=Flexy (フレキシィ) という造語もあるそうで、妖艶な雰囲気作品を披露してくれました。
- ⑮ ゲスト；Arisa (アリサ)；ケベックサーカス学校 (カナダ) 2 年次が修了し、一時帰国中に出演してもらいました。事前にメールでやり取りしているときに、「ショウ全体で足りていない雰囲気があれば、そういう作品を作ります」との頼もしいことば。そこで、今カナダで学んでいるコンテンポラリーな作品で出てほしい、とリクエストしました。帰国して全員練習に加わってからは、積極的にショウに参加したりアドバイスをくれたりしただけでなく、リハや本番時の進行なども、慣れた様子でハキハキと仕切ってくれたことに助けられました。演技は、倒立の安定感が増しており、また表情やトリック以外の動きなどの表現が豊かに組み込まれた「作品」に仕上がっており、さすがでした。(下写真；右)
- ⑯ 3 人ユニット (ゆずほ・Rika・Mizuki)；コントーションの醍醐味、複数での組み技に挑戦しました。また、影絵を行いました、思うようにキレイにできなかったのが今後見せ方を考えながら続けていきたいです。(下写真；左と中央)



エンディング；イントロ部分はエミリアとアリサが即興ダンス。その後、出演者のアマリンに振り付けをしてもらい、出演者全員によるダンスで幕を閉じました。

2 回のショウ、計 160 名の方に来ていただき、おかげさまで盛り上がりました。今回のたくさんの反省を踏まえ、今後も続けていきますので、日本に生まれつつあるコントーションを観に来ていただければ幸いです。(長屋あゆみ)

最新サーカス公演情報

★木下大サーカス

●岡山公演 公演期間 2014 年 6 月 7 日 (土) ~ 2014 年 8 月 31 日 (日)

●休演日；木曜日と 8/12。ただし 8/14 は開演。

●会場；岡山操車場跡地ひろば ●電話；岡山公演事務局 TEL086-245-0900

★ポップサーカス

- 富山公演 公演期間 2014年7月6日(日)～2014年8月31日(日) ●休演日；火曜日
●会場；アルペンスタジアム大テント会場 ●電話；富山公演事務局 TEL076-437-4555

★ルスツリゾート 『ウルトラドリームサーカス』

ルスツリゾート恒例のスペシャルサマーサーカスが更にグレードアップして今年も登場！初登場！迫力満点「ロシアンスイング」の他、美女が妖艶に空を舞う「空中リング」など。

※ご宿泊、もしくは遊園地利用で入場無料です。

- 公演期間 2014年7月25日(金)～2014年8月24日(日) ※月曜日休演
●時間 7月25日～8月10日 11:00/15:30 2回公演
8月12日～8月16日 15:30 1回公演と19:30 ナイター公演
8月17日～8月24日 11:00/15:30 2回公演

- 会場；ルスツリゾート ●電話；総合予約センター0136-46-3111

★シルク・ドゥ・ソレイユ ダイハツ『ovo』大阪公演

草木の下の生き物たちの世界を描いた初のファンタジー作品『オーヴォ』。カラフルで個性的な動きを見せるキュートなキャラクターたちに癒され、純粋で一途な恋の物語に心が温まる。

大阪公演会場：中之島ビッグトップ 大阪公演後は名古屋・福岡・仙台公演と続きます。

大阪公演：2014年7月17日(木)～10月14日(火)

ほか日程など詳細は公式サイトにてご確認ください。 <http://www.fujitv.co.jp/events/ovo/>

★ボリショイサーカス

1958年初来日以来、定期公演を続ける伝統を誇るボリショイサーカスが今年もやってきます。2グループが日本全国を巡業公演します。公式サイト <http://www.bolshoicircus.com/>

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ●札幌公演 7月31日～8月3日 | ●横浜公演 7月27日～8月6日 |
| ●大阪公演 8月7日～8月11日 | ●所沢(埼玉)公演 8月9日～8月12日 |
| ●福岡公演 8月14日～8月17日 | ●幕張(千葉)公演 8月15日～8月19日 |
| ●周南(山口)公演 8月21日～8月24日 | ●名古屋公演 8月22日～8月26日 |
| ●浜北(静岡)公演 8月29日～8月31日 | ●津(三重)公演 8月29日～8月31日 |

その他公演情報

★『エンパイア EMPIRE』

世界を魅了する”至近距離サーカス・エンタテインメント”ダークシルク第2弾！

- 期間 2014年7月18日(金)～9月15日(月祝) ●会場；品川プリンスホテル Club eX
●お問い合わせ；サンライズプロモーション東京 TEL0570-00-3337

<http://www.darkcirque.com/empire/>

★スラバのスノーショー

ロシア出身の道化師であるスラバ・ボルニンが創作・演出するファンタジーショー。

- 東京公演；2014年8月6日(水)～8月17日(日) ※11日、12日は休演 シアター1010にて。
●大阪公演；2014年8月20日(水)～24日(日) シアターBRAVA!にて。

公演時間は日によって異なります。HP <http://www.slavasnowshow.jp/> などをご確認ください。

- チケット予約 東京公演；キョードー東京TEL0570-550-799 大坂公演；チケットよしもとTEL0570-550-100